

県立美術館内「ひろま」のイメージ。屋内外の仕切りを感じさせず、開放感にあふれる



目次

P2 特集

あなたと「つくる」県立美術館
～施設整備が本格始動～

P5 広報課取材メモ

心地良い緩さが継続誘う
カネナリ会

P6 県政トピックス

● 4月補正予算が成立

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルスに関する最新情報は、県公式ウェブサイト「とっとりネット」で確認できます。一人一人ができる予防対策、個人や事業所への支援策・相談窓口などを毎日更新しています。

新型コロナウイルス感染症特設サイト
<https://www.pref.tottori.lg.jp/corona-virus/>



LINE公式アカウント「鳥取県ー新型コロナ対策パーソナルサポート」
個人の状態に合わせた情報を提供します。

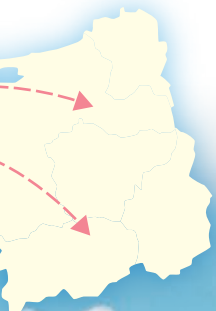
DATA

県人口／552,209人〔男 263,907人、女 288,302人〕
世帯数／220,271世帯（2020年4月1日現在推計）

「つくる」県立美術館

施設整備が本格始動

2024年度の開館を目指し、県立美術館の整備が本格化します。また、県民・関係機関による支援や美術の普及活動は既に始まっています。人をつくり、まちをつくり、そして県民がつくる美術館。皆さんも、自分にできる「つくる」活動を見つけて、ぜひ参加してください。



県立美術館の外観イメージ

多様な「つくる」が始動

県は美術館の整備に当たり、専門家や地域団体、県民などの意見を踏まえた鳥取県立美術館整備基本計画を2018（平成30）年に策定しました。同計画によって、新たな美術館は▽次代を担う子どもたちを中心に「人をつくる」場▽地域活性化に貢献する「まちをつくる」拠点▽県民一人一人が主体的に関わる「県民がつくる」機会という三つの役割を担うことに。これらの多様な「つくる」活動を展開させることから「未来を『つくる』美術館」がコンセプトです。県は、設計・建設が本格化する本年度、「美術館整備局」を現地に設置。地域や学校との連携、さらに文化・観光面での県全体の取り組みも進めます。

美術館を地域活性化の好機と捉える県中部では、5市町官民による「県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会」が活動中。7部会が観光・経済、まちづくりなどの課題に取り組んでいます。その中から、美術館づくりに貢献したいと願う

あなたと



倉吉市に建設される県立美術館。県民全体が集まる「広場」としての機能も担っている



自分事として支え、成功に導く

とっとり^{けんび}県美応援団
(県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会 応援団部会)

団長 佐伯^{さえき けんじ} 健二さん

「住民の熱意が最も大切」。これは島根県芸術文化センター「グラントワ」のセンター長・澄川^{すみかわ きいち}喜一さんが、2016(平成28)年に県立美術館を考える中部地区の集いで語った言葉です。私はこのとき「美術館の成功は、地元住民が出入りし、自分事として支えてこそ」との思いを強くしました。

早速、美術館ボランティアを学ぼうと周囲に声を掛けると、40人近くが集まりました。18(同30)年6月にグラントワを視察。解説や広報、生花での館内の装飾、周辺の除草などの支援ができる学びました。折よく「県立美術館と共に歩む中部地区の集い協議会」から応援団部会への勧誘が。今後も美術館整備局と情報共有しつつ、自ら学びを深め、鳥取県ならではのボランティアに発展させていきたいです。

活動を中部だけにとどめないとの思いから、部会の愛称は「とっとり県美応援団」。`できる人が、できるときに、できることを、がモットー。仲間入り、いつでも大歓迎です。



グラントワで美術館ボランティアを学ぶとっとり県美応援団



小学生を博物館に招き、美術を身近に感じてもらう「バス招待」。作品鑑賞がじっくりできる。県立美術館開館に向けて、こうした仕掛けづくりが進む

未来を「つくる」美術館

新たな美術館は、誰もが気軽に訪れ、楽しむことのできる開かれた美術館を目指し、いろいろな「つくる」活動を展開します。

人をつくる

美術に触れる機会を提供、創作を支援する

まちをつくる

地域づくりを支えつつ、その魅力を高める

県民がつくる

県民が美術館づくりに参加し、支え育てる

住民の自主活動から始まった「応援団部会」を紹介します。

美術館づくりを知り、支える

新設の美術館には、県立博物館が収集した作品を展示するほか、「美術ラーニングセンター(仮称)」機能を設置します。これは、県が蓄積したノウハウを生かして、子ども

たちをはじめ幅広い世代の「美術を通じた学び」を支援するもの。想像力や創造性、コミュニケーション力などを育みます。既に実施している、学芸員と共に講座を企画する県民ボランティア「ワークショップつくり隊!」も、その一つです。



美術家
やまね ふみこ
山根 文子さん
(鳥取市)

自由に、気楽に、触れてみて

自宅で、家事の合間に絵を描いています。県立博物館の「ワークショップつくり隊!」には2018(平成30)年から参加しています。きっかけは博物館のイベント。玄関前でレンガの地面に、子どもたちがパステルを使って絵画を描く楽しげな様子を見掛け、「これは面白い。大人の私もやりたい」と。その後、「つくり隊」の募集を知って応募しました。

私が提案した今年の企画は、アクリル絵の具や色紙、シールなどを使って、うちわを彩るというもの。「皆さんの思うようにどうぞ」と促しました。作ることを面白がって楽しんでほしい、そう願う私自身も「つくり隊」を楽しみ、刺激をもらっています。大人も子どもも気楽に美術に触れてもらえる企画づくりに、これからも関わりたいです。



「ワークショップつくり隊!」の企画で思い思いにうちわを彩る参加者

また、県内の美術館や博物館などの文化施設と協力連携し、美術館のサービスをどこでも受けられる環境づくりも進めます。

一方、美術館を整備し、県と一緒に運営する事業者が、鳥取県立美術館パートナーズ株式会社に決まりました。今後は、約1年半をかけて設計、来年度中に着工予定です。

県は、美術館ができるまでの過程を、県民と共に作るフリーペーパー『Pass me』で発信。美術館づくりを知ることができる、私たちにできる支援の一步です。



『Pass me』は年2回発行。公共施設で入手できる

問 県立博物館
☎ 0857-26-8042
☎ 0857-26-8041

問 県教育委員会事務局美術館整備局
☎ 0858-47-3011
☎ 0858-47-3022
✉ bijyutsukan-seibi@pref.tottori.lg.jp
<https://www.pref.tottori.lg.jp/bijyutsukanseibi/>



開館までのスケジュール

(年度)				
2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
設計	建設工事			開館準備
県民が美術館づくりに参加するワークショップ展開				開館
現地ツアー・カウントダウンイベント実施				
美術館を支える人々とのネットワークづくり				

全国初のPFI事業方式

県立美術館の建設・運営は、民間事業者の経営上のノウハウや技術的能力を活用するPFI(Private-Finance-Initiative)手法を導入。効率的で優れた品質の公共サービスを提供します。美術館の新設・運営のPFIは、全国初の取り組みです。



取材メモ

鐘を突いていた住職が2003(平成15)年11月に亡くなって約半年間、鐘の音が途絶えた日南町の常桂寺。集落の有志によるカネナリ会は約16年間、鐘突き活動を続けています。



午後5時ちょうどに鐘を突く会員の松本一俊さん。会発当初の木製だった撞木はその寿命を終え、現在は先端が木製、本体は金属製のハイブリッド(混成)に

心地良い緩さが継続誘う

カネナリ会

日南町大仙谷集落の小高い台地にある山寺・常桂寺。かつては、映画上映をはじめとする娯楽やラジオ体操の会場として使われるなど、住民にはなじみ深い場所です。活動のきっかけは、2004(平成16)年6月の集落寄り合い後の懇親会で出た「鐘の音がしないのは寂しい」という住民の声でした。「また突かんかや」「総代が突いたら」「みんなが交代で」と話は展開。さらに▽鐘突き時刻

は原則午前6時30分ごろと午後5時ごろの2回▽1週間交代の当番制▽都合で突けなくてもよい、など緩いルールもそののちに決定。こうして、14人の男性会員により「カネナリ会」が発足し、翌7月から再び集落に鐘の音が響くようになりました。

会員の平均年齢は71歳。入れ代わりや隣の集落からの参加もあり、現在も14人を維持。会員の藤原寿郎さんは「13人だと毎年同じ人が盆・正月の当番になるので、14人は必要」と笑います。1

回の鐘を突く数は自由なので、当番のこだわりが発揮されます。時刻を意識して朝7回と夕方5回、縁起を担いで末広がりの8回、6分間で終えるよう45秒おきに9回など人それぞれ。開始当初は、音が小さい、間隔が長(短)過ぎ



良い音を出すコツは撞木の重みだけで突くと。子でせたちも上手に響かせる



夕方は、集落に響き渡る鐘の音に、役場から流れる『夕焼け小焼け』の「山のお寺の鐘が鳴る」のメロディーが重なる

るなどの意見も聞かれました。しかし、今では「生活の目安になる」「鐘の音が良い」などねぎらわれ、その特徴から当番を言い当てる住民もいます。

今年7月で17年目に入る活動を「冬の朝は厳しいと思うこともあるが、何かに突き動かされて体が動く」と話す藤原さん。「何となく、緩くが集落のいいところ。続ける理由ははっきりと分からないが、心地良い緩さがそうさせているのかも」と続けます。

取材を終えて

愛着ある常桂寺で、鐘突きを緩く長く続けるカネナリ会と、感謝しながら活動を見守る住民。突く人の個性も感じさせる鐘の響きは、この地域をつなぐアイテムの一つのだと感じました。(か)



❖ コロナへの緊急対策講じる ～4月補正予算が成立～

医療体制の充実

新規 医療環境整備事業

【13億8,974万円】

体外式膜型人工肺「ECMO」、院内感染を防ぐためウイルスを周囲に漏らさない簡易陰圧装置などの整備支援、マスク・ガウンの配布などにより医療環境を整備します。

新規 新型コロナウイルス感染症対策事業 (軽症者等宿泊療養運営事業)

【2億9,944万円】

感染者のうち、症状がない人や軽症者が療養する居室を確保するため、民間宿泊施設を借り上げ、必要な備品を整備します。

日常生活の支援

新規 マスク流通促進緊急対策事業

【3,500万円】

県内事業者と連携し、県民がマスクを購入する機会を確保するための仕組みを構築。県内の店舗でマスクを買うことができる購入券を全戸に届けます。

新規 新型コロナウイルス入院患者家族支援事業

【1,419万円】

感染によって入院する家族に代わって、介護の必要な高齢者や障がい者の支援、施設での子どもの預かりなどを行います。

新規 コロナに負けない! とっとり絆事業

【500万円】

外出自粛や学校の休校などにより、困り事が生じている県民を支援するボランティア活動に10万円(上限額)を助成します。

教育環境の整備

拡充 ICT(※)環境整備事業

新規 臨時休業中における家庭学習支援事業

【7,412万円】

オンライン学習に対応するため、県立高校生への通信機器の貸し出しや、小中学生にeラーニング教材の利用支援などを行うとともに、学校休業期間を活用した読書感想文コンクールなどを実施します。

新型コロナウイルス感染症緊急対策を含む補正予算(総額約145億9千万円)が、4月臨時県議会で可決されました。県は、日常生活や地域経済に対するきめ細かな対策を早急に進めます。

まず、医療体制をより充実させるために、体外式膜型人工肺「ECMO」をはじめ必要な設備整備を支援し、入院病床・軽症者宿泊療養施設などを確保します。

また、入手しづらい状況が

続くマスクを県民が購入する機会を確保するための仕組みを整え、日常での感染拡大予防を支援。また、高齢や障がいのある家族や子どもがいる人が感染し入院した場合、県が福祉サービスの調整や施設での預かりを実施することで、入院期間中の家族の不安を軽減します。

さらに、雇用継続に取り組む飲食店や、新商品開発に取り組む企業などに対しても、幅広い支援を展開します。

企業・農林水産業への支援

新規 頑張ろう

「食のみやこ鳥取県」緊急支援事業

【3億円】

雇用継続や、県産農林水産物を活用してテークアウト・メニュー開発などに取り組み飲食店・旅館・観光事業者などに幅広く10万円(上限額)を支援します。

新規 危機突破企業緊急応援事業

(経営危機克服型)

【2億円】

中小企業が新型コロナウイルスの影響による経営危機を克服するために行う新商品開発や新サービス提供などの新たな取り組みに上限50万円(補助率4分の3)を支援します。

新規 緊急雇用対策農林水産ささえあい事業

【1,131万円】

新型コロナウイルスの感染拡大により影響を受けている企業や個人事業所などの従業員に対し、農林水産分野での臨時的な雇用を支援します。

(※)情報通信技術のこと。Information and Communication Technologyの頭文字をとったもの。



問 県庁財政課

☎0857-26-7044 📠0857-26-8124 ✉zaisei@pref.tottori.lg.jp

<https://www.pref.tottori.lg.jp/291042.htm>





読者の声 (4月号の意見・感想から)

- 自分の地域での「コミュニティ・カーシェアリング」を知り、かつてタクシードライバーをしていた私も協力できるかもしれないと思いました。(40代)
- 大豆入りドライカレーがおいしそうですね。娘と一緒に作ってみたいです。(30代)

- ^{ほっしょうじ}法勝寺川沿いのきれいな桜は、開墾から始めて守り継ぐ^{かほんくらび}河畔倶楽部の大変な努力あってのこと。感謝の気持ちになりました。(70代)
- ろう者との会話に時々手話を使いますが、多少違っていても伝わります。大切なのは伝えようとする気持ちだと思います。(20代)

- ^{えんどうかよこ}遠藤佳代子さんの記事を読み、ナチュラルガーデンの良さ、美しさに惹かれました。船岡竹林公園にも行ってみたいです。(60代)



4月号には504人からご意見をいただきました。ありがとうございます。これからもご意見、ご感想をお待ちしています。



県産品プレゼント

応募締め切り 6月19日(金)必着

ふくのほまれ

福ノ誉 (3点セット) 【5名】



シャキシャキした歯応えが特徴の鳥取市福部町産ラッキョウを使った調味料。「じゃことらっきょうの生ラー油」「くだき梅らっきょう」「旨辛らっきょう味噌」を1点ずつセットで。

たからふくいち

宝福一有限公司(倉吉市西倉吉町)
☎ 0858-28-2321 F 0858-28-2323

応募方法

クイズの答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、年齢と「県政だより」を読んだ感想・意見をお書きの上、次のいずれかの方法でご応募ください。

※当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。はがきなどに書かれた個人情報、感想・意見は、プレゼントの発送と「県政だより」記事作成の参考として使用し、これらの目的以外には使用しません。



- はがき 〒680-8570 鳥取県広報課「県産品プレゼント」
- 電子メール dayorip@pref.tottori.lg.jp
- 県ホームページ応募フォーム
<https://www.pref.tottori.lg.jp/dayorip/>



県立美術館のコンセプトは、「未来を『○○○』美術館」です。○○○に入る文字は次のうちどれでしょう。

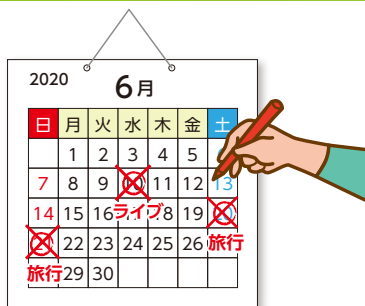
ヒントは
特集

① つくる ② えがく ③ ひらく

◎ 4月号のクイズの答えは「②カー」でした。

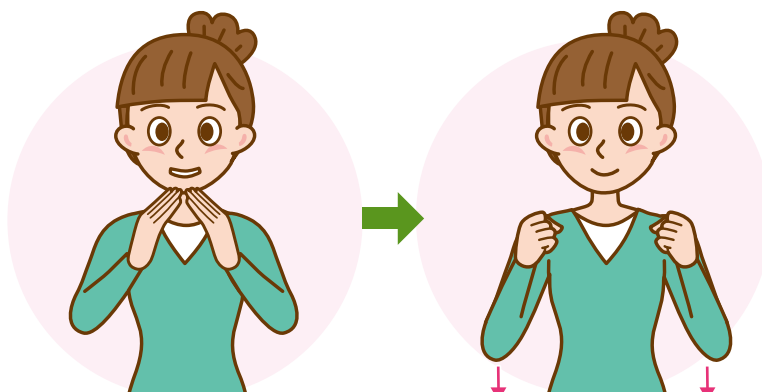


手話を覚えてみよう……「家にいましょう」



新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、不要不急の外出をせず、家で過ごしましょう。

※手話の表現は一例です。



「家」

両手の指先を付け、斜めに構える

「いる」「滞在する」

腕を立てて両手拳を向き合わせ、両肘を同時に少し下げる





ワカメとイカのサラダ

食材のいろいろな食感が楽しめます。

【協力】鳥取県栄養士会

【材料】(1人分)

- イカ…………… 50g
- 生ワカメ…………… 15g
- キュウリ…………… 1/4本
- 塩…………… ひとつまみ
- ミニトマト…………… 5個
- 玉ネギ…………… 1/10個
- マヨネーズ…………… 小さじ2
- ヨーグルト…………… 大さじ1と1/2

【作り方】

- ①イカは食べやすい大きさに切り、お湯でさっとゆでて冷ます。
- ②生ワカメは一口大に切ってざるに広げ、お湯を掛けて冷ます。
- ③キュウリは輪切りにして塩をまぶし、しばらくおいた後、水気を搾る。玉ネギは薄切りにする。

- ④ボウルに①②③を入れて軽く混ぜ、ミニトマトとともに皿に盛り付け、マヨネーズとヨーグルトを混ぜ合わせたソースをかける。

歯・口腔の健康について
<https://www.pref.tottori.lg.jp/hanokenkou/>



2020年4月から食べる力を育むレシピを掲載中。

県広報のお知らせ

県公式ツイッター

トリピーが鳥取県の観光や旬の話題などの情報を発信。

<https://twitter.com/tottoripref>



広報課が県公式ウェブサイト「とりにネット」などの新着情報や報道提供資料を発信。
https://twitter.com/tottori_kouhou

県政テレビ番組「マルっと! とっとり!」

旬の県政情報を映像でお届けします。録画放送もウェブサイトでご覧になれます。

山陰放送(BSS) 不定期土曜日 午後9時54分~10時
<https://www.bss.jp/marutto/>



県政だより、アプリでも配信

県政だよりは、各世帯へのお届け、公共施設・コンビニエンスストアなどへの設置のほか、県公式ウェブサイト「とりにネット」にも掲載しています。今年5月号からはさらに、スマートフォンアプリ「マチイロ」でも配信しています。

■利用方法

アプリストア([App Store]または[Google Play])で「マチイロ」と検索してダウンロードしてください。

●お知らせ

5月号6頁に記載の「発熱・帰国者・接触者相談センター」東部のファクシミリ番号は5月2日以降、次の番号に変わりました。 ☎0857-20-3962



かがり火の炎に照らし出される幽玄の世界

古典芸能
体験事業

梨花薪能

入場
無料

2020年8月29日(土) 会場/とりにぎん文化会館 中庭 特設能舞台
※雨天の場合は、とりにぎん文化会館フリースペースに会場を変更します。

【主催】(公財)鳥取県文化振興財団 【共催】鳥取県能楽連合会

- 《第一部》15:30開演：鳥取喜多会、鳥取宝生会、鳥取観世会、鳥取松響会による連吟、舞囃子
- 《第二部》18:00開演：梨花薪能 解説/林宗一郎
 - 大蔵流狂言《寝音曲》/茂山忠三郎 ほか
 - 観世流能《小鍛冶》/林宗一郎 ほか

●お問い合わせ

とりにぎん文化会館

〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5
Tel.0857-21-8707

詳しくはwebにて▶
<http://www.torikenmin.jp>



※広告は広告主の責任において掲載しています。広告内容などを県が推奨するものではありません。